

# 会派視察研修計画書

平成29年 6月30日

碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ

代表者名 神谷 悟

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	神谷 悟・杉浦 文俊・石川 輝彦		
日 時	平成29年8月7日（月）～平成29年8月9日（水）		
視 察 先	8月7日（月）	新潟県長岡市	
	8月8日（火）	富山県富山市	
	8月9日（水）	石川県金沢市	
研 修 内 容	長岡市・・・中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について 富岡市・・・お迎え型病児保育事業について 金沢市・・・小中一貫英語教育について		
日 程	8月7日（月）	新潟県長岡市	13：30～16：30
	8日（火）	富山県富山市	13：30～15：30
	9日（水）	石川県金沢市	10：00～11：30
交 通 手 段	公共交通機関利用 乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	自家用車利用 _____ 台 所有者名（ _____ ）	

# 会派視察研修報告書

平成29年 8月22日


碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ

代表者名 神谷 悟

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 3人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	神谷 悟 ・ 杉浦 文俊 ・ 石川 輝彦 (市民クラブ・公明党・みらいクラブ合同視察)	
日時	平成29年 8月 7日(月) ～ 8月 9日(水)	
視察先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月 7日(月) 新潟県長岡市</li> <li>・ 8月 8日(火) 富山県富山市</li> <li>・ 8月 9日(水) 石川県金沢市</li> </ul>	
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟県長岡市 … 中越大震災の経験を活かした 防災対策の強化について</li> <li>・ 富山県富山市 … お迎え型病児保育事業について</li> <li>・ 石川県金沢市 … 小中一貫英語教育について</li> </ul>	
視察先面会者 又は講師名等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟県長岡市 … 危機管理防災本部 課長補佐 長谷川正和</li> <li>・ 富山県富山市 … まちなか総合ケアセンター 所長代理 水野 智 こども家庭部 課長代理 青山 哲也</li> <li>・ 石川県金沢市 … 学校教育部 担当課長 村田 昌人</li> </ul>	
		
	新潟県長岡市	富山県富山市
		
	石川県金沢市	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

## 視察研修成果報告書

平成29年 8月 22日

議員氏名 神谷 悟

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

#### 1 期 間

・平成 29年 8月 7日（月）～8月 9日（水）

#### 2 視察先

- ・新潟県長岡市（中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について）
- ・富山県富山市（お迎え型病児保育事業について）
- ・石川県金沢市（中小一貫英語教育について）

#### 3 視察の種類

・会派視察研修（市民クラブ）（みらいクラブ）（公明党）

#### 4 視察の成果等

#### ★目的

○私たち市民クラブ・みらいクラブ・公明党は三会派合同視察を上記の日程で、行政視察を実施させていただきました。防災・子育て支援の先進地を選択させていただき、しっかりと学び、本市に活用できる施策においては、一般質問や委員会等にて提言を行い、安全で住みやすいまち碧南市を目指し、市民サービスの充実を図ることを目的に視察を行いました。

#### ◆テーマ：中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について（長岡市⇒1日目）

◇平成16年に発生した中越大震災の経験を活かし、災害対策本部会議室

「日本一災害に強いまち」を目指す、長岡市の防災体制の強化の取り組みについて視察を実施。

#### 【主な施策】

- 度重なる災害から得た教訓・ノウハウの蓄積
  - ・「長岡市防災体制強化の指針」を作成
  - ・地域の防災リーダーを育成する中越市民防災安全大学の開校
  - ・緊急告知FMラジオの貸与



- ・災害情報伝達体制の整備
- ・河川監視カメラ等、各種システムを取り入れた災害対策本部会議室の整備

長岡市視察の様子



ながおか市民防災センター



**【所感】**

・地域防災力の強化については、自主防災会の結成を促進する活動を支援。小・中学校区の自主防災会が防災訓練を実施した場合、世帯数に応じ活動報奨金を支給するなど地域の防災力の強化に力を注ぎ、防災減災意識の高揚を図っており、非常に大切な取り組みであることを感じました。

応急対策と避難環境の整備については、市としては市民が備蓄しにくいもの（非常用発電機、投光器、簡易更衣室、授乳室、簡易トイレなど）を備蓄し、食料・飲料水は市民の方々が各自で備蓄することになっており、役割分担を実施していました。

災害を経験した市民であるがゆえこのような取り組みが実施できると感じましたが、本市においても方向性を変更し、自分でできることは、自分たちで実施することが必要であると考えます。備蓄しにくいものを市が保管し、家庭で比較的備蓄しやすいものについては各家庭で行い、災害時に備えることが最も重要であると思いました。限られた財源の中で、防災力強化に向け実施するため、このような取り組みは防災力に厚みが出ると感じ、大変参考になりました。

**◆テーマ：お迎え型病児保育事業について（富山市⇒2日目） 富山市視察の様子**

◇保育所等で子どもが体調不良となった時、保護者が迎えに来られない場合などに、病児保育室の看護師と保育士がタクシーで迎えに行き、かかりつけ医にて受診した後、病児保育室で保育看護するシステムであった。対象は市内に住所を有し、市内の体調不良児保育事業を実施していない保育所等に通っている満1歳以上未就学児

利用料金については、病児保育室使用料2,000円

タクシー代の1/4、医療費は実費で運営

事業費用⇒病児・病後児保育事業費約3,300万円

内訳	国庫補助金	604万円
	県補助金	604万円
	一般財源	2,023万円

定員数⇒10名/日

条件⇒事前登録を行いまた、医師による「診療情報提供書」必要

**【所感】**

・人口減少や少子高齢化という大変重大な問題を抱えている日本にとって、今後は子育て支援に重点をおき、子育てしやすい環境づくりを実施する必要性があると



まちなか総合ケアセンター



考えます。そんな中、働きながら子育てを行っている共働き世帯の支援も充実していくべきであると強く思いました。地域格差があるのも問題ですが、本市においても本市に合った子育て支援の充実に向け、提言していきたいと思ひます。

◆テーマ：小中一貫英語教育について（金沢市⇒3日目） 金沢市視察の様子

◇平成16年に「小中一貫英語教育特区」に認定され、小中一貫英語教育を全小・中学校で行っており、独自の副読本も用いながら、ふるさと金沢について発信できる力を身につけることをめざしていました。

○事業費用⇒総額 1億5,000万円

・英語インストラクター 41名  
7,700万円

・ALT 12名 6,000万円

・教科書 1,200万円

○成果⇒英検3級合格率 全国平均約36%  
金沢市 約47%

○授業時間⇒小学校1、2年 15分/週  
3、4、5、6年 35時間/年  
プラス15分/週  
中学校 140時間/年



金沢市の議場にて



【所感】

・金沢市の小中一貫英語教育を視察させていただき、小学校の低学年から英語になじみ、学び、抵抗もなく英語を習得できることに共感した。小学校・中学校が連携し、9年間を見通した連続性・系統性のある教育活動を展開することにより、生徒のレベルアップが図れる取り組みであることを理解した。また、教科書についても地元金沢の歴史や文化を題材に、学習しやすい、興味が湧く内容となっており、素晴らしい取り組みであると感じました。本市としては、まずは朝の読書の時間を週一回でいいので、英語のリスニングを行うなど、英語教育を取り入れることを今後提案したいと感じました。

今回の3日間の研修、本当にありがとうございました。

神谷 悟

## 視察研修成果報告書

平成 2 9 年 8 月 2 2 日

議員氏名 石川輝彦

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 平成 2 9 年 8 月 7 日（月）～平成 2 9 年 8 月 9 日（水）
- 2 視察先 新潟県長岡市・富山県富山市・石川県金沢市
- 3 視察の種類 会派視察（市民クラブ・公明党・みらいクラブ合同視察）
- 4 視察の成果等

#### 【長岡市・・・中越大震災の経験を活かした防災対策の強化について】

- ・この地域でもいつ来るかわからない、いつ来てもおかしくない巨大地震の備えに対し、平成 1 6 年に発生した中越大震災の経験を活かし、「日本一災害に強いまち」を目指して取り組まれている長岡市の防災体制について視察を行った。
- ・中越大震災後、長岡市では防災体制の強化に向けて、平成 1 7 年度は、市民・企業から意見、アイデアの集約、市議会議員・職員からの意見、アイデアの集約、NPO・ボランティア・他自治体職員からの意見、集約を行い、同時に長岡造形大の教授を委員長に置く「長岡市防災対策検討委員会」を設置され、専門家集団による全国のモデルとなりうる防災対策の検討を始められている。そして、それぞれの意見や提言等より、平成 1 8 年度には「長岡市防災体制強化の指針」を策定されていた。
- ・この長岡市防災体制強化の指針は、道路や河川などインフラの整備と市民力・地域力を最大限に生かした防災への取り組みによる日本一災害に強い都市の実現を目標に、①災害予防と減災対策、②地域防災力の強化、③災害情報伝達体制の整備、④応急対策と避難環境の整備、⑤災害対策本部機能の強化の 5 本柱に基づき、地域防災計画を見直されていた。
- ・まず①災害予防と減災対策では、「我が家が避難所、だから強く安全に」を基本哲学に、耐震改修、補強や家具の固定に重きを置き、公共施設の耐震化やバリアフリー化、道路・公園・ライフラインの整備をされていた。
- ・②地域防災力の強化では、大震災前の平成 1 5 年度の自主防災会数 2 3 3 組織であったものが、平成 2 1 年度には 7 1 0 組織と 3 倍以上に跳ね上がり、各地域でも自主防災会を中心に防災訓練が実施されていた。
- ・③災害情報伝達体制の整備では、FM ラジオの緊急割り込み放送を実現し、そのために基地を増設し、受信エリアを拡大させたとのことであった。
- ・④応急対策と避難環境の整備では、震災時に救援物資が全国から寄せられたことにより、仕分けや保管が災害対応の支障となった教訓から、災害直後における個人からの救援物資を受けとらないと明記されていた。さらに、備蓄品を市民が備蓄しにくいものとし、食料や飲料



水は市民が備蓄するものとされていた。

- ⑤災害対策本部機能の強化では、災害対策本部室を新たに設け、総合的に情報が共有できるよう大型ディスプレイに市が設置した定点カメラ映像などの各種情報を一元表示でき、災害情報の取得や整理が実現されていた。また対策本部メンバーに市議会議長も入っている。
- ◇長岡市の地域防災計画は、自助・共助を中心に策定されたものと感じた。公助には出来ることに限りがあることは言うまでもなく、このことを市民に対し、理解していただくことが重要であり、最も難しい問題であるが、長岡市では完結されている。碧南市においても、この高いハードルを乗り越えるべく、取り組んでいくことが必要である。



### 【富山市・・・お迎え型病児保育事業について】

- 碧南市では、病後児保育は実施しているものの、病児中の子どもを預かっていただける施設はなく、働く母親からの声もあることから、既に病児保育を実施している富山市の事業を勉強し、碧南市でも取り入れることが出来るか検討するため、視察を行った。
  - 富山市では、病児保育として3つの事業を展開しており、保育所等に通所中の子どもが保育中に突然発熱した場合など、保護者がお迎えのまでの間、預かる「体調不良児童対応型」が40園/96園、病気や病気回復期のため集団保育が困難なお子さんで、保護者の勤務などで家庭で保育できない場合に預かる「病児・病後児保育」が5園/96園、保育所等で急に子どもの体調が悪くなったとき、保護者に代わり市の看護師と保育士がタクシーでお迎えに行き、かかりつけ医等で受信したのちに預かり保育をする「お迎え型」が1施設（まちなか総合ケアセンター内病児保育室）ある。
  - 今回視察させていただいた「まちなか総合ケアセンター」は、病児保育室が3室あり、利用料金は、使用料が2,000円、タクシー代が実費の1/4、医療費は実費（市医療費助成が利用できることから、実質無料）で、市内の体調不良時保育を実施していない保育所等に通所している1歳以上の未就学児が利用できる。
  - まちなか総合ケアセンターでの利用状況は、平成29年度で7月末現在、病児・病後児保育の登録者の451人中212人（延べ人数）が利用、お迎え型病児保育が登録者数244人中4人（延べ人数）が利用され、利用者のアンケートでは、「これまで祖父母にお迎えを頼んでいたが、この事業が出来て精神的ストレスもなくなった」「この事業がありすごく助かる」等の声をいただいているとのことであった。
  - また、まちなか総合ケアセンターには、病児保育室のほかに、「まちなか診療所」「医療介護連形室」「産後ケア応接室」「こども発達支援室」「地域連携室」「まちなかサロン」が整備され、乳幼児から高齢者まで地域住民が安心して健やかに生活できるまちづくりを推進するため、行政サービスを一元的・包括的に提供されている。
- ◇国では、一億人総活躍とか女性の活躍等を展開するよう求めてきており、それに対応するためには、少しでも子育てをする保護者が安心して働くことが出来る環境整備が必要である。それぞれの保育所で、病児・病後児保育を行うことは困難であると考えるので、碧南市では、市民病院内に併設することが考えられると思う。



富山新聞に視察が掲載（平成29年8月14日）

### 【金沢市・・・小中一貫英語教育について】

- ・小学校での英語教育が必須となり数年が経過するが、義務教育の小学校と中学校で繋がった教育が必要であり、小中一貫英語教育特区で取り組まれている金沢市の事業を勉強し、碧南市に繋げるため視察を行った。
  - ・金沢市では、平成7年に「金沢世界都市構想」を策定したことにより、平成8年から小学校における英語活動を導入し、平成16年には特区での英語教育、平成24年には小中一貫英語新カリキュラムを実施され、小中一貫英語教育の目標を「自分の考えや意見、ふるさと金沢などを表現するコミュニケーション能力の育成」とし、取り組まれている。
  - ・小学1・2年生では、ショートタイムの時間を週1回英語学習として、低学年用音声CDとピクチャーカードを使用し、年10時間の学習を行っている。小学校3年生からは、金沢市独自の教材を使用し、デジタル教材も利用しながら、英語学習を行っている。
  - ・金沢市の英語科学習指導要領の中に、小学校・中学校ともに「コミュニケーション能力（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）の基礎を養う」とあり、これら基に、金沢ベシックカリキュラムが策定されている。
  - ・指導体制は、小学校に「英語インストラクター」41名を配置。中学校では「ALT」12名を配置し取り組んでいる。また、指導者の育成においては、転入してきた教員には英語研修、さらに日常業務として、担当指導主事による「訪問指導」を行っている。英語インストラクター研修も年に7回実施しているとのことであった。
- ◇今、社会では「読む」「書く」英語能力より、「聞く」「話す」英語能力が必要とされており、小学校低学年から英語を耳にすることにより、英語能力が向上している金沢市の取り組みは先進であると感じる。碧南市もものづくりのまちとして、これからの社会に対応できる子どもたちの学校教育が必要である。





## 会派視察研修報告書

平成 29年 8月 22日

議員氏名 杉浦 文俊

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 平成 29年 8月 7日（月）～平成 29年 8月 9日（水）
- 2 視察先 新潟県長岡市、富山県富山市、石川県金沢市
- 3 視察の種類 市民クラブ会派視察
- 4 視察の成果等

#### 《中越大震災の経験を活かした防災体制の強化について》

- ・新潟県長岡市は平成16年の中越大震災、平成17、18年の豪雪被害を経験し平成18年より地域防災計画の見直しを行った。
- ・計画内には、災害経験を踏まえた防災体制強化として①地域防災計画の見直し②各種災害対応マニュアルの作成③市民向け防災パンフレットの作成④災害情報伝達体制の整備⑤避難所環境の整備⑥市民防災安全大学の開校という6つのポイントをあげ取り組んだ。
- ・地域防災計画の見直しでは、自主防災会の育成強化を促すことで平成18年では33.2%であった結成率が、平成21年には88.4%、平成28年には91.9%まで上昇している。これは新潟県中越大震災復興基金による防災に必要な倉庫及び防止設備に要する補助制度の影響が大きい。また、災害対策本部の強化として、市庁舎の建て替えに伴い会議室の整備を行った。整備前は職員個々から情報を取得し、気象及び河川の水位等は数値情報が主であった。整備後は、会議室に設置した大型ディスプレイに定点カメラ（河川道路300ヶ所）、気象情報、河川水位、TV、インターネット等、各種情報を一括表示することでリアルタイムな情報を共有し、迅速的確な判断ができるようになった。
- ・各種災害対応マニュアルの作成では、本庁支所が一体となった設置運営・事務局員マニュアルや、避難所開設マニュアル、物資調達・救援物資対応マニュアルを作成し、カメラ付携帯電話によるテレビ電話機能を積極的に活用している。また、震災から得た教訓をもとに、何を学び今後どのように活かすかを考える為、小中学校に防災教材を配布している。
- ・災害情報伝達体制の整備では、伝達手段を多様化することにより伝達度を向上させる目的のもと、緊急告知FMラジオを作成し、災害時の緊急放送時には自動的に電源が

入り最大音量で迅速かつ正確に災害情報を提供する仕組みとなっている。

- ・避難所環境の整備では、地域の避難所としての学校づくりを目指し、既存87の小中学校にて出入り口のスロープ設置、体育館内に電話とテレビの接続口設置、トイレの洋式化、受水槽に蛇口の設置、LPガス接続口の設置を行っている。
- ・また、長岡市は中越大震災時に仮設住宅として利用していた土地を市民防災公園として整備し、常時は安らぎ・憩いの場として利用し、災害時には防災拠点となっている。公園内は100 tの飲料水兼大型貯水槽や下水直結式の非常用トイレ14基、貯留式10基が設置されている。また、敷地内には、市民防災センターがあり平常時は防災学習・研修拠点施設や「子育ての駅」として利用され、屋根付き広場では、雨や雪の日でも子供たちが遊べるよう活用している。

災害時には災害対応拠点施設として災害ボランティア等の活動支援や、緊急物資を屋根付き広場に一時集積する仕組みとなっている。碧南市においてはすでに取り組んでいる事業はあるものの、緊急告知FMラジオや下水直結式の非常用トイレは見習いたいところである。



#### 《お迎え型病児保育事業について》

- ・富山市は、①体調不良児対応型、②病児・病後児保育、③お迎え型といった3つのタイプの病児保育事業を実施している。③お迎え型は平成28年10月より実施した全国初の取り組み事業である。過去から保育所で就労支援 こどもが急に体調不良になったとき保護者が休みを取りにくい中安心して仕事ができるよう環境をつくる為、力を入れて取り組んできた。
- ・①体調不良児対応型では、市内100保育施設中40ヶ所対応し、基本的にはこども園認定保育園に通っている方が対象である。保育所等で保育中に突然発熱した場合など、保護者迎えまでの間預かり、専任の看護師を配置し保護者が迎えに来るまで具合を見ている。専任の看護師は常時は保育士としてカウントされている為に保育士としての業務を行っている。
- ・②病児・病後児保育では、平成10年より開始し、私立の施設4ヶ所で実施してきた。まちなか総合ケアセンターの設置に伴い、初めて直営で開始。病気や病気回復期のため集団保育が困難で、保護者が家庭で保育できない場合、保育所に通っている等関係なく預かっている。
- ・③お迎え型では、保育所等で急に体調不良になった時、保護者の代わりとなって市の看護師と保育士がタクシーで迎えに行き、かかりつけ医で受診した後、まちなか総合ケアセンター内の病児保育室で保育看護する。対象は、市内の体調不良児対応型を実施していない保育所に通っている満1歳以上の未就学児であり、事前登録が必要である。利用料金は病児保育室利用料2,000円、タクシー代の1/4、医療費（医療費補助制度により無料）となる。市内保育所に看護師を配置したいが、施設整備お金と時間がかかる点、看護師不足といったなか、体調不良児対応型保育所を増やすことが難しい状態であった。解消方法として、拠点づくりで職員が出向いて迎えに行くことで対応できるようになると考えこの事業がはじまった。
- ・導入にあたって、市の職員が迎えにいき、預かり、医者に診せる業務を行うが、職員は子どもの体調や普段の生活を知らない為、医者に説明が難しく、保護者医師会も不安であると考えられた。問題を解消するため、事前登録制をとり健康状態アレルギー

問題、保護者と保育所に連絡を取り近日の様子、保育所での様子を細かく聞き、かかりつけ医で説明できるように対応することで医師会の協力理解を得ることができた。様態の急変には市民病院にて対応するなど安心に力を入れている。病児病後児保育事業全体の事業費は3,300万（国県補助1/3、市2/3）利用状況は10月に始まったこともあり周知PR、保育施設との情報交換が今後の課題である。病児病後児保育事業はあくまで最終手段であり、保護者対応が子どもにとっても良いのではと考えている。しかしながら、保護者としてはこの事業がある事で安心して仕事をする事ができる。碧南市としては、病後児保育は対応しているので、まずは病児保育の可能性を目指していきたいと考える。



#### 《中小一貫英語教育について》

- ・金沢市は平成8年度より小学校での英語活動に取り組み、平成16年に「世界都市金沢」小中英語教育特区に認定され小中一貫英語教育を行ってきた。平成21年度からは教育課程特例校に変更されたが、独自の副読本を用いながら、ふるさと金沢について発信できる英語力を身につけることを目指している。
- ・小学校では、1～6年生で週に一回以上15分程度のショートタイムによる指導の実施している。1～2年生は、英語の音声やリズムなどに慣れ親しみ、コミュニケーションを楽しむことを指導基準にした英語指導を学級担任のもと、聞く話すを中心とした指導を実施している。3～6年生では、標準指導数35時間以上の英語課としての指導を学級担任とインストラクターの2人体制のもと、聞く話すを重視しつつ読む書くにつなげる指導をしている。3年生以上で金沢版小学校英語副読本「Sounds Good」及び音声CD、デジタル教材を主たる教材として使用している。
- ・中学校では、金沢版中学校英語副読本「This is Kanazawa」を活用し、自分の考えや意見、ふるさと金沢の歴史文化を発信できる基礎を養うことを目指し、学力に応じた習熟度別少人数授業や個別指導を実施している。
- ・成果として、中学校3年生での英検3級取得は、平成28年度では全国平均36.1%に対し金沢では47.6%と大きく上回っている。
- ・グローバル化が進み、英語語学能力が必須となってきた中、早期から取り組むことで慣れ、地域の事を学びながら学習できる教材を使用することで、親しみ興味を持つと考えられる。金沢市では、英語に触れ合う時間を長く持つことで、少しずつ時間をかけて語学力を高めようと試みている。碧南市においては、国語能力をまずはしっかりと学んでから、多語学を学習するべきという意見も重視しつつ、今後の英語教育を検討していきたい。

